

活動紹介

NPO 法人千葉県森林インストラクター会

講座名	緑を楽しむ講座千葉 「繊維の歴史からSDGsまで～糸紡ぎ体験付き～」		
開催日時	2022年8月4日(木) 9時30分～11時30分		
開催場所	千葉市民会館	一般参加者	8名

活動概要



早朝から講座終了まで何回も激しい雷雨が鳴り響く悪天候、また、コロナ65歳以上は要注意との報道が増える等、多難な条件の中を8名の方々に来ていただくことができました。

第1部「繊維の歴史からSDGsまで」話の主な内容

●縄文時代に繊維としてつかわれていたと推定されている様々な植物やその頃から使われるようになった編布



(編むことで作る布…アングン) の紹介

●ワタは、大陸移動と共に世界へ広がり進化したであろうと推定されていて、現在では、主にアジア綿、陸地綿、海流綿の3種に代表されるようになっている。海流綿は、種が海で流されることでも広がっている。



●日本で綿栽培が定着し、庶民も使用できるようになったのは江戸時代で、それまで、貴族は絹、一般的な武士はクズ、庶民はカラムシや麻、各種の自然布を主に身に着けていた。

●かつては、どこの農村でも機織りの音が響き、衣類は繊維作りから始める自給自足が基本であった。そして、「へそくり」の語源は、農家の嫁が作った繊維の玉(へそ)をためて実家のために使えた風習であった。

●房総では、九十九里地域で綿栽培が盛んになったのは、元禄地震(1703年)での塩害対策によるもので、千葉を代表する綿紡績業へ成長していったこと。綿花輸入税撤廃での綿の価格暴落など数多くの苦難を乗り越えている。



●現在、私からが衣類で使っている繊維は、約7割が石油由来の合成繊維・綿3割弱・ウール1%・絹0.2%である。合成繊維は、機能が進化し、天然繊維の方は値が上がっている。

●大気・海流共に自然界では、ナノプラスチック・マイクロプラスチックの増加が近年明らかになり、人体への影響が危険視され始めている。このまま使い続けると、2070年には、マイクロプラスチックの量が魚の量を上回り、海はプラスチックのスープになってしまうだろうことをNHKでは紹介している。私たちは、すでにプラスチックが体内に入った魚を食べている。地球は、SDGs(持続可能な開発目標)を必要とする状態となっている。(繊維の場合は、得に、SDGs12番作る責任使う責任)



●ファッション雑誌VOGUEのホームページでは、「海のマイクロプラスチックの35%以上は、私たちの洗濯によって出たもの」なので、専用の洗濯袋使用などの対策を推奨している。



●木材から作る代替プラスチックであるセルロースナノファイバーやセイロン象の糞から作る



ぞうさんペーパーなど 日本が関わってきた工夫の紹介 等 これらの話を、たくさんのクイズでの予想を通し、一緒に考え、楽しんでいただきました。

休憩には、プライド革命(プラスチック依存度革命)の歌を放送。第2部 綿の糸紡ぎ体験では、和綿の種取り、紡錘車(コマ)による糸紡ぎを行いました。

予約していた20名から諸事情の急変により人数は激減しましたが、「楽しい。」「面白い。」との感想をいただきました。



FIIC講師 : 西河内

スタッフ: 石田、和波、井形、佐山、植村